

留学体験レポート

国際学部 2年 伊藤健太

1. はじめに

私は、約4カ月アメリカの University of Central Missouri(UCM)へ留学してきました。初めて日本を離れ、自国とは異なる言語や文化の国で私が学んだことや感じたことを述べたいと思います。

2. アメリカでの生活について

私たちは日本の授業で、よく「何歳ですか？」(How old are you?) という文を使いますが、実際アメリカに来て感じたことは、現地の人々は全くその質問はしないということです。日本には敬語があり年齢を気にするというのは文化の一つではありますが、アメリカではリスペクトをしつつ年齢関係なく話していました。これは文化の違いの一つなのかなと思いました。年齢を気にすることなく気軽に話すことができました。相手もそんなことは全く気にせずにフレンドリーに話しかけてくれました。お互い知らない人でも挨拶が飛び交いとても心地よかったです。対等な立場で話すというのはとても素敵な文化だと思いました。

3. 授業について

他国の人はとても積極性があり、授業中も自ら発言をしていました。私たち日本人はどうしても英語を話すことに自信が持てずにいました。留学に来てすぐは、本当に他国の人々の英語力に驚かされました。難なく母語ではない英語で会話をしている、自分との差に衝撃を受けました。せっかく質問をしてきているのにも関わらず、返事を上手く返せず、とても申し訳ないと思いました。それでも、この状況を改善するためにはやはり、「人と話す」ということが一番大事であると思いました。はじめは聞き取るのも精一杯で何回も聞き直しましたが、それでも聞くことも大事で、分からないまま聞いても、相手は分かっていると思って会話を続けるので、しっかり分からないときは分からないと言うことも大事です。日常の簡単な会話を他国の人と繰り返し行うことで以前より上達することができたと思います。普段から英語に触れて話すことがスキルの向上につながると思いました。

4. 課外活動について

私は、他国の友達とほぼ毎週サッカーをして、すぐに仲良くなることができました。日本でするサッカーとアメリカでのサッカーはやはりどこか異なり、他国の人とするサッカーはとても楽しかったです。学校内で開かれるスポーツ大会もあり、そこに参加してサッカーで優勝することができて嬉しかったです。

5. おわりに

アメリカ留学を通じて、異文化の理解や物事の考え方が大きく変わりました。この経験をこれからの日常生活に活かしていきたいと思います。

最後に、留学を支援してくださったすべての方々に感謝します。